

令和 4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490100136	事業の開始年月日	平成23年4月1日
		指定年月日	平成23年4月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ横浜岸谷		
所在地	(〒230-0078) 神奈川県横浜市鶴見区岸谷1-10-27		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年12月14日	評価結果 市町村受理日	令和5年2月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/14/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は京浜急行生麦駅より徒歩5分程度と非常にアクセスに恵まれています。コロナ禍であっても施設の玄関先で短時間ではありますが、直接面会を行っておりご家族様との面会で安心されたご利用者様の笑顔をお見受けしています。

コロナ禍では御座いますが、感染対策に気をつけながら外部レクを少しずつ開始しております。施設内ではお食事レク・おやつレク・お誕生日会など行っています。11月から食材業者変更を行い、今まで3食湯煎メニューで御座いましたが、朝食・昼食は手作りメニューへ変更しました。利用者の皆様美味しく召し上がって頂いています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和4年1月17日	評価機関 評価決定日	令和5年2月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇**食の楽しみの支援**

- ・以前は業者からの食材を湯煎して提供していたが、現在は朝食と昼食を手作りしている。手作りすることで、利用者も食材の買物に出かけたり、調理の匂いが食欲をそそる、野菜がおいしいなど、楽しみ方が増えている。夕食の手作りも検討している。
- ・誕生日会のケーキやクリスマスケーキ、正月のおせちも手作りしている。
- ・月1回の食事レクでは、利用者が焼きそばやたこ焼きなどおやつ作りをしたり、ハンバーガーを買ってきたり、利用者が楽しめるよう支援している。

◇**職員が提案するレクリエーション**

- ・敬老の日やクリスマスなどレクリエーションを計画的に実施し、内容は職員に任せている。夏祭りでは利用者が浴衣で参加したが、着付けのできる職員の提案だった。

【事業所が工夫している点】

◇**新型コロナウイルス抗原検査キット**

- ・利用者が家族と外出や外泊することを可能にするため、家族に検査キットを渡ししている。事業所に戻る前に家族が検査し、利用者の陰性を確認して事業所に受け入れている。これまで家族由来の感染者はいない。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ミモザ横浜岸谷
ユニット名	サルビア壺番館

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は施設の理念を元に利用者の生活の向上の為話し合いサービスを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・法人理念「高齢者の幸せな暮らしに貢献する」を各階の事務室に掲示し、ユニット会議で確認するなど職員で共有している。 ・職員は笑顔で接することを心がけ、できることは利用者自身が行えるよう支援している。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為地域とのかかわりが行えていない	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入しているが、コロナ禍で行事には参加していない。 ・コロナ前には、中学生の職場体験を受け入れていた。 ・アニマルセラピーのボランティアが訪れ、利用者は犬3匹とのふれあいを楽しんだ。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方々が気軽に立ち寄って頂けるホームを目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・2か月ごとに自治会長、鶴見区高齢・障害支援課へ活動報告書を郵送している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため、運営推進会議は2か月に1回、書面会議としている。 ・活動報告書を鶴見区高齢・障害支援課と自治会長に郵送し、委員には意見や情報提供を求めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動報告書をメンバーの家族代表や民生委員、地域包括支援センター職員などにも送付し、意見や情報提供を求め、議事録を作成することが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区主催の研修等に出来るだけ参加するようにしている	<ul style="list-style-type: none"> ・区的生活支援課とは、生活保護利用者の病院の受診など必要に応じ連絡を取り、助言や指導を受けている。 ・職員は、区主催の実践者研修を受講したり、リモートで「質の向上セミナー」を学んだりしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行っている。身体拘束をしないケアのマニュアルもあり職員が意識出来る環境作りをしている	・身体拘束適正化対策検討委員会を年6回開催し、議事録を作成し職員に回覧している。 ・研修を年2回行い、受けた職員は報告書を作成している。 ・転倒対策などでやむを得ず拘束する場合は、家族の承認を得ている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用契約書、重要事項説明書に明記。虐待、拘束の厳禁を各職員に徹底するとともに、外部・内部の研修へ積極参加促進を行っている。	・研修を年2回行い、受けた職員は報告書を作成している。 ・年1回「虐待の芽チェックリスト」を使って、職員の虐待に対する認識を把握し、対策を検討し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者もおりその制度についての資料も置いてある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契時にしっかりと説明を行いご理解頂いた上で契約をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等で状態など都度お伝えしている。信頼関係を築き自由に意見や要望を言える様に努めています。	・家族からは面会時や電話のほか、毎月の「ミモザ通信」に返信欄を設け、意見を求めている。 ・家族の意見は連絡ノートに記録し、職員で共有している。 ・コロナでも面会したいという要望で、玄関先で5分だけとしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や毎日の申送りの中で意見交換を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的個別面談を行っている。 管理者は、元気がない職員や愚痴が多い職員に、積極的に話を聞くようにしている。 職員提案で、食事を業者提供から手作りに変えた。現在朝食と昼食が手作りだが、夕食も検討している。 	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実態について代表者は毎月把握しており職員から出される要望についても検討したうえで回答している。やりがい向上心につなげている。職場環境にも気を配っている。	<ul style="list-style-type: none"> 管理者は職員の努力や実績を把握し、本部に報告している。 実践者研修やケアマネジャーなどの資格取得を勧め、出勤扱いにしたり受講料を負担し、時給を上げるといった支援をしている。 	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を職員に伝えて参加を勧めたりしている。又本社の研修も参加促し勤務中オンライン研修を受けて頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> 新人職員は3か月間、コミュニケーションなどの研修を受講し、ベテラン職員からOJTでケアの技術指導を受けている。 業務の一部を担当し手当が付くアロー制度を設置するなど、職員のステップアップを支援している。 	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎週グループの他事業所とミーティングを行い意見交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前相談時より利用者が持っている不安、疑問、困りごとをお聞きするなど傾聴と受容の姿勢を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事、心配事をお聞きしながら不安解消出来る様情報提供を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族との話し合いを充分に行い入居が適切か？他の福祉サービスが適切か？見極め情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、その方の出来る事出来ない事を探りながら職員と良い関係を築きながら取り組んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為ご家族の参加を控えて行事を行っているが面会時や手紙で報告している。写真は郵送している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はや知人との交流が出来る様に訪問を歓迎している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が、駅前のスーパーへの買い物に行くのを支援している。 ・家族から利用者への電話を取り次いでいる、利用者は家族への連絡に事務所の電話を使っている。 ・家族と葬式や墓参りに行ったり、外泊する利用者もいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や人間関係を把握し食席の配置を決めたりお手伝いをお願いしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した利用者や利用者の家族でも、いつでも相談にきていただけるようお話をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中から利用者の思いや意向家族の意見もくみ取り話し合いを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者との会話や行動から意向を把握している。利用者の言葉をくりかえし、確認を取っている。 ・利用者の意向は申し送りノートに記録し共有している。 ・「外に出たい」という要望には、散歩や日光浴で即時対応している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の家族から生活歴や暮らしぶりを伺い個人の生活を大切に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の現状を把握して、一人一人の1日の過ごし方を一緒に考えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・利用者の出来る事、出来ない事を見極めカンファレンスをまめに行っている。	・利用者と家族の要望や、カンファレンスでの職員の意見をもとに、ケアマネジャーが介護計画を作成している。 ・モニタリングはケアマネジャーが利用者一人ひとりの様子を職員にヒアリングし、記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の介護記録は個々に入力し、全職員で情報を共有しケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族のニーズや本人の状況に合わせてサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為自粛しているが、地域ボランティアを受け入れる体制は出来ている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医が月2回行われている。ご利用者の健康状態等を把握している。家族の希望も伝えている。	・協力医は月2回訪問診療をしている。看護師は週1回訪問している。 ・利用者のかかりつけ医や専門医の受診には家族が同伴している。 ・手足が拘縮し協力医が必要と認められた利用者はマッサージを受けている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは日常の健康管理について、気軽に相談できる関係を築けている。また、ご利用者の状態を把握している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携を密にし、退院に向け情報交換、相談に努め支援している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化や終末期ケアについての対応は、本人・家族の意向を尊重し支援できるよう取り組んでいる。	・入所時に、終末ケアについての対応指針を家族、利用者に説明して同意を得ている。重度化した場合は、医師が家族に説明し今後の方針を話し合い、合意書を作成している。 ・職員は、毎年1回ターミナルケアの研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時用マニュアルがあり、応急処置や初期対応について研修を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災避難訓練を行っている。消火器の取り扱いも把握できている。非常時近くに住む職員の応援体制も出来ている。	・夜間想定を含む防災訓練を年2回行っている。災害時には、徒歩15分で来れる職員が1名いる。 ・コメ、水、インスタントラーメン、クッキー、カセットコンロを備蓄し、リストを作成して消費期限を管理している。	・自治会に対し、避難訓練に参加をいただけるよう、働きかけることが望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対して、「安心と尊厳のある生活の支援」「秘密保持」を契約時に約束している。職員は自尊心を大事にした言葉かけている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、年1回プライバシー保護や接遇の研修を受けている。 ・利用者への呼びかけは、苗字にさん付としている。 ・トイレや入浴時、希望する利用者には、同性介助で対応している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で毎日の過ごし方、自分の思いを表せるように働きかけ自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶等の時間は決まっていますが、ご利用者は自分のペースで過ごして頂き職員はそれとなく見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。2ヶ月に1回訪問理美容に来て頂いている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事レクでパンケーキやたこ焼きなど作ることは職員と一緒にやっています。食事の味見をして頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・食事を楽しめるように、朝食と昼食は職員が手作りしている。誕生日やクリスマスのケーキ、正月のおせちも手製で利用者に喜ばれている。 ・利用者の希望を聞き、パンケーキ、たこ焼き、おしるこ等のおやつ作りの楽しみを支援している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録している。ご利用者の状態に合わせた食形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。清潔保持に努めている。問題があれば訪問歯科に相談している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンをつかみ時間で誘導している。問題があれば都度カンファレンスを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、一人ひとりのパターンを排泄チェック表にて把握し、声掛けをトイレに誘導している。 ・夜間おむつの利用者が何人かいるが、日中は全員リハビリパンツとパットを使用している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態の確認を毎日行っている。便の状態に合わせて下剤の管理を行っている。食事・水分をしっかり摂取して頂いている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者のタイミングに合わせて入浴して頂いている。入浴剤を使用したり冬至にはゆずを湯船にいれ香り季節感を楽しんで頂く工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は週2回午前中としている。 ・利用者の状況に合わせて機械浴やシャワー浴としている。 ・入浴剤やゆず湯、菖蒲湯などで入浴を楽しめるようにしている。 ・職員はかゆい所を尋ねたり、むくんだ足をもんだりしている。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房を使用し適度な温度を調整保っている。不安により休めない時は職員が話相手になったりソファで休んでいただく工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、個々に使用している薬の目的や副作用について把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1回は食事レクを行っている。誕生日会を必ず行っている。その方に合ったレクリエーションを考えて行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、施設の周りで外気浴を行っている。外食レクを考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が事業所の周りを散歩したり、近くの公園で散歩や外気浴をするのを支援している。 ・家族の協力で外泊もできるようになり、コロナ検査キットで検査して陰性を確認して戻ってもらうようにしている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にお金を預かっている。日用品を職員と一緒に買い物に行ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話でご利用者とご家族が話せる事が出来る。手紙やはがきも自由にやりとりできるように支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングではテレビを見たり、ソファに座ったり自由に過ごせる空間にしている。室温を適温に保っている。季節感を感じられる装飾をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・夜勤担当の職員が、掃除している。コロナ対策でテーブルや手すりを消毒し換気も24時間行っている。 ・温度は22℃、湿度は60%を目安に快適に過ごせるようにしている。 ・利用者と職員で季節を感じられるように壁飾りを作成している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者が孤立することがないように食席を考えて配慮している。ソファに気軽に座って頂けるようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や物をお持ちいただいている。自宅で使われていた布団を使われている。	<ul style="list-style-type: none"> ・室内には、エアコン、介護用ベット、クローゼットを設置している。テレビを持ち込んでいる利用者もいる。 ・必要な利用者には、家族の了解を得て、転倒防止のためセンサーコールを設置している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーを意識した建物で、車椅子でも使用しやすいように工夫されている。居室には介護ベッドを設置しご利用者が寝起きしやすいように配慮している。		

事業所名	ミモザ横浜岸谷
ユニット名	サルビア式番館

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は施設の理念を元に利用者の生活の向上の為に話し合いサービスを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為に地域とのかかわりが行えていない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方々が気軽に立ち寄って頂けるホームを目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月ごとに自治会長、鶴見区高齢・障害支援課へ活動報告書を郵送している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区主催の研修等に出来るだけ参加するようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行っている。身体拘束をしないケアのマニュアルもあり職員が意識出来る環境作りをしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用契約書、重要事項説明書に明記。虐待、拘束の厳禁を各職員に徹底するとともに、外部・内部の研修へ積極参加促進を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	青年後見制度を利用されている利用者もおりその制度についての資料も置いてある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契時にしっかりと説明を行いご理解頂いた上で契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等で状態など都度お伝えしている。信頼関係を築き自由に意見や要望を言える様に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や毎日の申送りの中で意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実態について代表者は毎月把握しており職員から出される要望についても検討したうえで回答している。やりがい向上心につなげている。職場環境にも気を配っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を職員に伝えて参加を勧めたりしている。又本社の研修も参加促し勤務中オンライン研修を受けて頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎週グループの他事業所とミーティングを行い意見交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前相談時より利用者が持っている不安、疑問、困りごとをお聞きするなど傾聴と受容の姿勢を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事、心配事をお聞きしながら不安解消出来る様情報提供を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族との話し合いを充分に行い入居が適切か？他の福祉サービスが適切か？見極め情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、その方の出来る事出来ない事を探りながら職員と良い関係を築きながら取り組んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為ご家族の参加を控えて行事を行っているが面会時や手紙で報告している。写真は郵送している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はや知人との交流が出来る様に訪問を歓迎している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や人間関係を把握し食席の配置を決めたりお手伝いをお願いしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した利用者や利用者の家族でも、いつでも相談にきていただけるようお話をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中から利用者の思いや意向家族の意見もくみ取り話し合いを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の家族から生活歴や暮らしぶりを伺い個人の生活を大切に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の現状を把握して、一人一人の1日の過ごし方を一緒に考えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・利用者の出来る事、出来ない事を見極めカンファレンスをまめに行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の介護記録は個々に入力し、全職員で情報を共有しケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族のニーズや本人の状況に合わせてサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為に自粛しているが、地域ボランティアを受け入れる体制は出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医が月2回行われている。ご利用者の健康状態等を把握している。家族の希望も伝えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは日常の健康管理について、気軽に相談できる関係を築けている。また、ご利用者の状態を把握している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携を密にし、退院に向け情報交換、相談に努め支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化や終末期ケアについての対応は、本人・家族の意向を尊重し支援できるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時用マニュアルがあり、応急処置や初期対応について研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災避難訓練を行っている。消火器の取り扱いも把握できている。非常時近くに住む職員の応援体制も出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対して、「安心と尊厳のある生活の支援」「秘密保持」を契約時に約束している。職員は自尊心を大事にした言葉かけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で毎日の過ごし方、自分の思いを表せるように働きかけ自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶等の時間は決まっていますが、ご利用者は自分のペースで過ごして頂き職員はそれとなく見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。2ヶ月に1回訪問理美容に来て頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事レクでパンケーキやたこ焼きなど作ることは職員と一緒にやっている。食事の味見をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録している。ご利用者の状態に合わせた食形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。清潔保持に努めている。問題があれば訪問歯科に相談している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンをつかみ時間で誘導している。問題があれば都度カンファレンスを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態の確認を毎日行っている。便の状態に合わせて下剤の管理を行っている。食事・水分をしっかり摂取して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者のタイミングに合わせて入浴して頂いている。入浴剤を使用したり冬至にはゆずを湯船にいれ香り季節感を楽しんで頂く工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房を使用し適度な温度を調整保っている。不安により休めない時は職員が話相手になったりソファで休んでいただく工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、個々に使用している薬の目的や副作用について把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1回は食事レクを行っている。誕生日会を必ず行っている。その方に合ったレクリエーションを考えて行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、施設の周りで外気浴を行っている。外食レクを考えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にお金を預かっている。日用品を職員と一緒に買い物に行ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話でご利用者とご家族が話せる事が出来る。手紙やはがきも自由にやりとりできるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングではテレビを見たり、ソファに座ったり自由に過ごせる空間にしている。室温を適温に保っている。季節感を感じられる装飾をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者が孤立することがないように食席を考えて配慮している。ソファに気軽に座って頂けるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や物をお持ちいただいている。自宅で使われていた布団を使われている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーを意識した建物で、車椅子でも使用しやすいように工夫されている。居室には介護ベッドを設置しご利用者が寝起きしやすいように配慮している。		

目標達成計画

事業所名 ミモザ横浜岸谷

作成日 令和5年2月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	自治会に対し、避難訓練に参加いただけるように働きかけることが望まれる。	新型コロナウイルスも第5類に移行されるため、今後防災訓練実施する際は自治会の方にもご協力うただけのように働きかける、	新型コロナウイルスのため、地域交流が全くできていない状態であったが、今後は運営推進会議も実施できるため協力依頼をしていく。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。